



すべての多様性を輝かせるために

あらゆる多様性の尊重

優秀な女性研究者を育成・獲得することは、知の創出をリードする研究大学として重要な課題です。また、性の多様性や、様々な国・地域出身の方の文化・慣習の理解と尊重、さらに、何らかの障害や心身の状態、家庭環境等で学修や研究・職務に不自由のある方など、あらゆる多様性と公平性を尊重し、包括的な教育研究環境・キャンパス環境整備を推進しています。



女性研究者・学生の顕彰

「京都大学たちばな賞」や「京都大学久能賞」の授賞も、若い女性研究者の励みとなり、受賞者が後に学外の重要な賞を獲得するなど、確実なステップアップを実感しています。また、2021年には、各方面でご活躍の京都大学出身の女性を対象に「京都大学このえ会」を設立してネットワーク構築を図り、女子学生・研究者への支援と女性活躍機会拡大や課題解決に取り組んでいます。

ダイバーシティ推進に向けた取組の強化

www.kyoto-u.ac.jp/ja/news/2022-04-01-0

京都大学男女共同参画推進アクションプラン(2022年度～2027年度)では、特に女性研究者の育成・獲得を重点事項として掲げ、①全学の女性教員比率(特定教員を含む)を2027年度に20%とする、②役員会構成員の女性比率を2027年度に25%とする、という数値化した達成目標を設定し、実現に向けた各種取組を定めています。また、男女共同参画推進センターでは2022年度から四つの専門部会を設置して各種取組を一層強化し、例えば育児・介護支援では保育園入園待機乳児保育室の設置やベビーシッター利用育児支援、医学部附属病院と連携した病後児保育の実施など多様な制度の充実を図っています。



京都大学キッズコミュニティ KuSuKuの開設

本学では育児中の教職員・学生が安心して働け、また研究できる環境支援に、積極的に取り組んでいます。2023年12月には、京都大学在籍の教職員及び学生を対象に、小学1年生から6年生までを預かる学童保育所KuSuKu(クスク)を開設しました。KuSuKuは、「親を育む」「子を育む」をコンセプトに、研究者が安心して子どもを預けて研究に専念できるよう、土日祝日や夏休みなどの長期休みに開所しています。また、子どもたちには京都大学の研究リソースを活用したアカデミックプログラムを提供し、好奇心や探究心を育む場を提供しています。





女子中高生への応援 www.cwr.kyoto-u.ac.jp/for_girl/

本学の魅力を女子中高生や保護者の方々に伝える取組も積極的に行っています。毎年開催している「女子高生 車座フォーラム」のほか、「女子高生応援大使」の出身高校への派遣や、「出前授業」「オープン授業」も実施し、2022年から発行している広報誌『京からあすへ』や男女共同参画推進センターのホームページで、ロールモデルとなる女性研究者やOG 社会人を紹介しています。



京都大学ここのえ基金 www.kikin.kyoto-u.ac.jp/contribution/kokonoe/

ジェンダー平等をはじめとするダイバーシティ社会の実現は、多様な視点の共存と相互の寛容性に基づく創造的で豊かな社会の基礎であり、次世代の育成を担う大学はその中核としての役割を求められています。京都大学においても、優秀な女性研究者・女子学生を育成することは、自由の学風の下で創造的な知の創出をリードする研究大学としてさらに発展すると同時に、日本全体のダイバーシティに貢献するうえで重要な課題です。未来を担う女性たちがビジョンを持って才能を発揮できるよう、多くの機会を提供し、支援を強化していくため、ご協力をよろしくお願いいたします。



障害のある学生への支援 www.assdr.kyoto-u.ac.jp/drc/

京都大学において、学ぶことや研究することに障害（社会的障壁）が生じた時、どのような解決策や選択肢があるでしょうか。学生総合支援機構 障害学生支援部門（DRC）が、障害のある学生やその周囲の教職員、受験希望者の相談に応じています。専任スタッフが相談を受け、授業などでの合理的配慮の調整やノートテイク・移動介助等学生サポーターの派遣、AT（支援技術）の提供など、各種修学支援を行なっています。これらの活動が評価され、2023年9月5日、「障害者雇用優良事業所等京都府知事表彰」を受賞しました。



障害学生支援ガイドブック

京都大学における障害学生支援のシステムやDRCの紹介、各種障害に関する基礎的な知識・支援方法などを整理し、冊子として教職員に配布しています。実際に障害のある学生に対応する必要がある場合には、その都度、個別に相談していくことになりますが、手がかりとして活用しています。

フリーアクセスマップ

DRCでは従来のものとは少し異なる視点で情報を表示する方法を考え、マップを作成し配布しています。本マップは、主に車椅子利用者などの移動困難者の目線で作成したもので、従来のように道筋や設備の使用を限定し指示するようなものではなく、目的地までのバリア（障壁）を適切に表示することで、自らのスキルに合わせて道筋などを選択できるような形式にし、ネーミングも「フリーアクセスマップ」としています。



障害のある学生の支援リソースリスト(京都市版)

障害のある学生は、大学等による修学支援に留まらず、生活支援など地域リソースを利用することが少なくありません。DRCでは生活に関する相談窓口、就労に関する相談窓口などの情報を集約し、「障害のある学生の支援リソースリスト/マップ」を作成しました。利用可能なリソースが様々ななかで、ご自身の状況にあった機関を見つける参考にいただけます。

上記のコンテンツは、DRCのウェブサイトで公開しています。 www.assdr.kyoto-u.ac.jp/drc/contents/

